

結婚とは

スウェーデン婚姻法改定で、同性カップルの教会結婚を世界で初めて合法化

2007年6月28日 21:14 発信地: ストックホルム/スウェーデン [ヨーロッパ, スウェーデン]



スウェーデン、イェテボリ (Gothenburg) のOscar Fredriks教会でパートナー関係成立の祝福儀式を受ける同性カップル (2001年6月30日撮影)。(c)AFP/Larseric Linden/GT Kod



【6月28日 AFP】同性愛カップルの養子縁組を法的に認めているスウェーデンでは、2008年1月の婚姻法改定により、同性愛カップルが同国の国教会である福音ルーテル教会 (Lutheran Church) で挙式を行うことが可能となる。

- ◆現代のスウェーデンでは56%の人が未婚のまま出産し多くはそのまま生涯未婚を通す。
- ◆フランスでも6割近くが未婚のまま出産を行っており、こうした婚外子は年々増加しつつある。
- ◆結婚しなくても夫婦と同等の権利になれる制度や子育てに関する社会保障が法的に定められ、あくまでこの範囲の中で夫婦として子育てを行い、本当に愛し合い一生連れ添いたいとお互い思った場合のみ結婚を行うという考えが一般的になりつつある。

LBGTと人権

アムネスティは、性的指向(セクシャル・オリエンテーション)や性自認(ジェンダーアイデンティティ)に関わらず、すべての人々が、世界人権宣言に記されているすべての権利を享受すべきであると主張。

LBGTとは解説

性的指向：いずれの性別を恋愛や性愛の対象とするかといった概念

性自認：生物学的性に関わらず自分の性をどう感じているか、といった自己の性別に関する認識、必ずしも男と女に分かれるものではない。

LBGTとは、

L (レズビアン 女性同性愛者)

G (ゲイ 男性同性愛者)

B (バイセクシュアル 両性愛者)

T (トランスジェンダー 生まれたときの法的(生物学的)・社会的性別と一致しない、または囚われない生き方を選ぶ人などを表現する包括することば。一般的には性同一性障害をも含む総称)

性的少数者、性的マイノリティということばもLBGTと同様の意味合いで用いられる。

一般の人が知るべき事項は

LBGTの人々を取り巻く環境は

LBGTの人々に対する人権侵害

国際法と国連の声明決議は

LBGTの人々を取り巻く日本の現状

アムネスティの活動とは

多様性を認める社会を目指して

大脳半球機能差とラリラリティ

右の手のひら、もしくは左の手のひらで、竹ぼうきのバランスをとりながら、記憶の再生課題をやってみると、どちらの手を用いた方が、バランスが取りやすいだろうか。

男脳と女脳

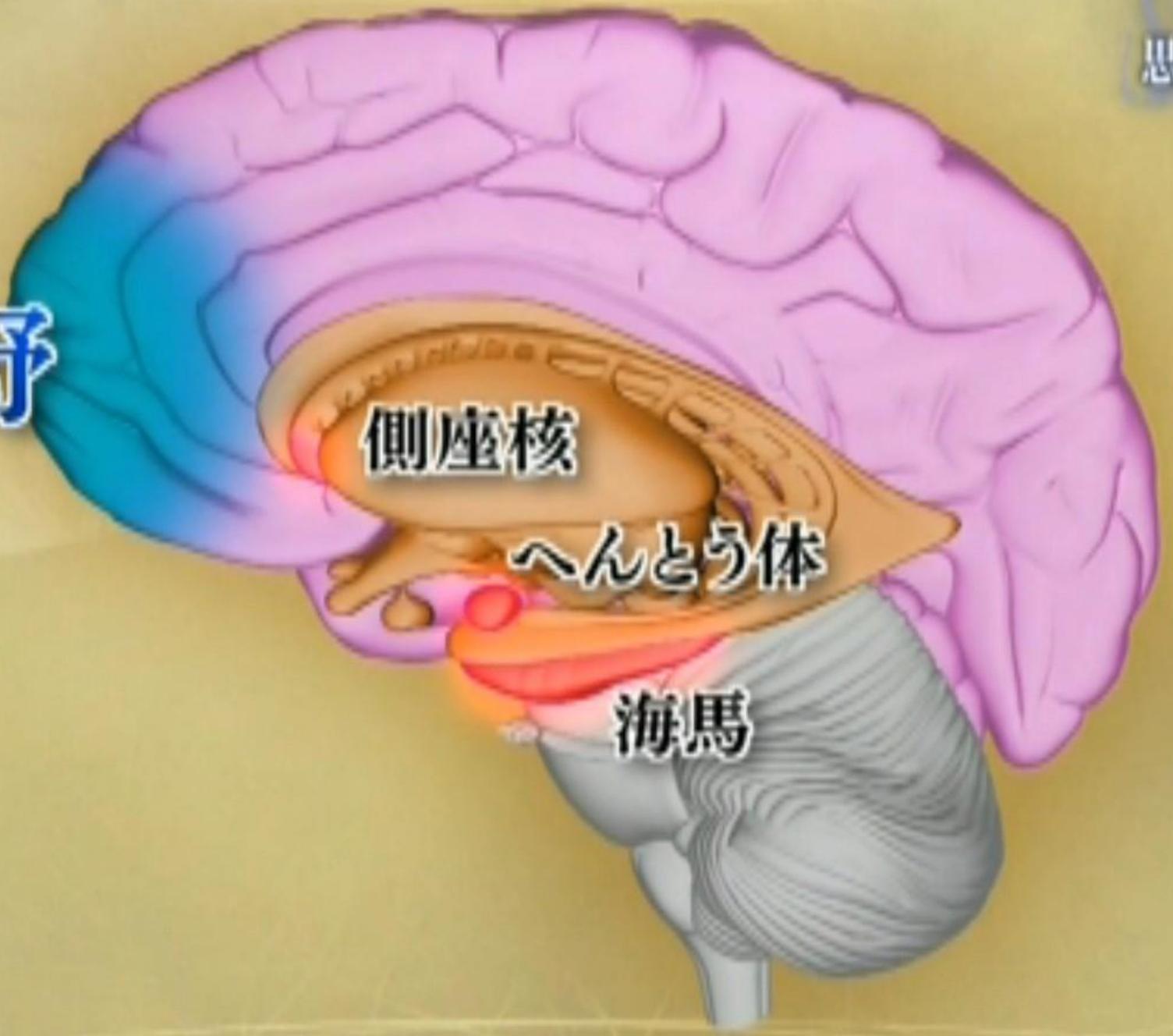


思春期と青年期の脳の発達

- 心理学でいう、第二次反抗期
- 突然キレることの正体は?
- 感情爆発はどうして生じる(心理学的には疾風怒濤)
- 性ホルモンが脳に影響
 - (男性ホルモン テストステロン)
 - (女性ホルモン エストロゲン)

ニッポンの家族
非常事態!?

前頭前野



側座核

へんとう体

海馬